

令和7年度 長崎大学教育学部附属小学校 学校だより

「らしき」輝く附属小



第38号 令和8年 3月13日(金) 校長 森内 秀学

旅立ちの日に

3/12(木)、第70回卒業証書授与式が無事終了しました(下)。学年目標「開花」を掲げ、学校を引っ張ってくれた93名の子どもたちでしたが、その目標どおり、それぞれの立派な花を咲かせて卒業していきました。



校長のはなむけの言葉では、好きなことを極めてほしいというメッセージをつたえました。多様な経験が人の考え方を形づくりまますから、好きなことを極める道すがらにある、面倒な経験や無駄な経験にも、しっかり向き合ってもらいたいという願いを込めました。

卒業生の代表による別れの言葉では、コロナ禍にスタートした小学校生活を振り返り、友達と笑い合えることの幸せを、今、改めて噛みしめているという言葉が胸に刺さりました。幼い頃に、先が見えない日々を過ごした子どもたちだからこそ、何気ない日常に感謝したり、幸せを感じたりする心が育ったのでしょうか。新型コロナウイルスがもたらした、唯一のメリットなのかもしれません。

そんな6年生に刺激されたのでしょうか。翌朝の校門ではこんな姿が見られました。



そうです。ガードマンの奥で、たくさんの5年生が、朝掃除をしているのです。もう「今日からは、自分たちがリーダーだ!」という気持ちが、顔中にあふれていました。学校の伝統は、こうして、子どもの姿で引き継がれていきます。